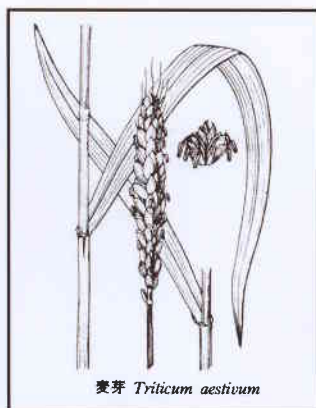


【生薬名】 麦芽 *HORDEI FRUCTUS GERMINATUS*

【起源植物】 オオムギ *Hordeum vulgare var. hexastion*

【科名】 イネ科 *Gramineae*



【別名】 浮小麦

【薬用部分】 発芽した種子のもやしを乾燥したもの

【主成分】 アミラーゼ、VB、VC

【薬性】 気味は甘平(鹹温とするものもある)、帰経は脾胃に属す

【効能】 ●疏肝醒胃、消食除満、和中下気

●煎液はペプシンと胃酸の分泌を軽度促進させる

●哺乳中止による乳汁鬱滞による乳房の腫痛によい

1日15~30gを煎服(大量が効果的)、矢数道明の報告多数あり

●一般的な消化不良、穀類の食べ過ぎの健胃に用いる

●人参や朮は補益の薬で消導の効はない

●麦芽は水穀を消化し脾胃を健やかにするのであり、脾胃の虚弱を補うものではない

●張錫純「補助脾胃薬の佐使薬として、若し人参、朮、黄耆などと併用すれば能く補益の力が益し、脹満を去る」

【備考】 ●似たものに穀芽(イネ由来)があり同様に使って差し支えない

【出典】 ●『名医別録/中品』に大麦として記載

●薬性論「大麦蘖、味甘にして無毒、能く宿食を消化し、冷氣を破り、心腹脹満を去る」とある

●本草綱目では蘖米として粟蘖、稻蘖、禾廣蘖の三種の記載あり

【処方例】 ●半夏白朮天麻湯、●補脾湯